



櫛紅葉 (はぜもみぢ)

発行：令和7年3月24日（月） （文責） 校長 田中 克三



※3年生は前号でラストと言っていたのですが、配信します。 学校ホームページでもご覧になれます。QRコードはこちら→

まだ明日は、何色にも染まっていない

～ R7.3.7 第78回卒業証書授与式 ～

第78回 卒業証書授与式



【校長式辞 抜粋】みなさんがこれから進む新しいステージでますます活躍することを願って、私から「はなむけ」のメッセージを贈ります。それは、「**まだ明日は 何色にも染まっていない**」ということばです。

もしみなさんが、これまでの中学生生活が順調で、卒業後に進む道に対しても特に不安なくエネルギーに満ち溢れている状態だとしても、中学卒業は通過点。**まだまだ経験していないことも、自分でも気付いていない能力や伸びしろもいっぱいあるはず**です。「まだ明日は 何色にも染まっていない」・・・**今に満足せず歩みを進め、信じた道に己の力をありったけ注いで、その先にある新しい景色を自分色に染めてほしい**と思います。

一方、もしみなさんが、「これまでうまくいかないことだらけで、この先も不安」だとか、「悩みや不満があって、毎日もやもやしている」といった状態であっても、中学卒業は通過点。失敗したり挫折したり、**一度転んだ者だけが見える世界があるし、転んだ分だけ立ち上がることができる**のです。「まだ明日は 何色にも染まっていない」・・・**苦しかったことを誰かのせいにするくらいなら、もう一度夢を描いて、自分を信じて一歩ずつ歩みを進めていきましょう。そうすれば、その先にある新しい景色を自分色に染めることができる時が必ずくると、この言葉を添えて励ましたい**と思います。

【送辞：在校生代表 抜粋】卒業式を迎えられた先輩方は、今、何を思い浮かべられていますか。先輩方との思い出を振り返ってみると、**いつも私たちの背中を優しく押してくださった**ことに改めて気付きます。私たちは先輩方から様々な活動を通して**一生懸命に努力することや、相手を思う心の大切さ**を学びました。今まで、私たちが導いてくださったことに、心より感謝申し上げます。そして、先輩方が築き上げてこられた伝統を守り、より発展させていけるように頑張っていきたいと思えます。先輩方は、これからそれぞれの将来への希望をもって新たな道へ歩んでいかれます。その中で、大きな困難に立ち向かうこともあるかもしれません。そんな時には、**中原中学校で過ごした仲間との日々を思い出して、新しい未来へ向かって羽ばたいていってください**。

【答辞：卒業生代表 抜粋】この三年間、私たちが大きく成長できたのは、いつも見守ってくださった周囲の方々のおかげです。情熱をもって、何度も大きな声で叱咤激励をしてくださった顧問の先生、何をしても温かく寄り添い続けてくれた先生方、暑い時も寒い時も朝早くから、登下校を温かく見守ってくださった地域の方々、振り返ると感謝の気持ちでいっぱいです。そして家族。これまで**たくさん迷惑をかけても、私たちの一番近くで温かく支えてくれました**。どんなときもそばで支え、今まで大切に育ててくれて、ありがとう。

最後に小学校から苦楽を共にした仲間たちへ。**一緒に笑い、悔しがり、時にはぶつかり合うことができた私たちのつながりは、一生続いていくはず**です。今日は、大好きな仲間たちとお別れのときです。今までに私たちは大好きな先生方との涙の別れを経験し、乗り越えてきました。きっと**この別れの先にある新しい出会いが、また自分自身を成長させ、それぞれの道を進んでいけるはず**です。みんな大好きです。本当にありがとう。

何事をなすにも志から

～2/21 2年生 立志式～



今年最後の授業参観となった2月21日(金)、2年生では、毎年恒例の「**立志式**」を行いました。「立志式」とは、昔の元服にちなんでおり、数え年の15歳の春に将来の決意や目標などを明らかにする行事のことです。本校では、やがて最上級生となる2年生のこの時期に、一人一人が自分の選んだ言葉を「書」にしたため、その言葉に込めた決意や思いを「誓いの言葉」として保護者の前で発表する活動を行っています。



幕末志士のリーダー、吉田松陰が残した格言一つに「**志を立てて もって万事の源(みなもと)とす**」というものがあります。これは、「何事をなすにもすべての実践は、志を立てることから始まる」という意味です。大人でもなく子どもでもない十代半ばのこの時期だからこそ、これまでを振り返り、今を見つめ、「**志を立てる**」ことは、これから最上級生として迎える中学校生活最後の1年間を、ひいては変化にとんだ未来を生き抜く時の一本の「**幹=信念**」として自分を導いてくれるはずです。

【生徒の「誓いの言葉」より】(抜粋・一部修正)

「勇往邁進(ゆうおうまいしん)」

この言葉は、どんな困難や障害があっても、歩みを止めず、乗り越えていくという意味です。これから大人になるまで困難に対してたとえくじけそうになっても、勇気を出して努力を惜しまず、大人への道をしっかり踏みしめていきたいと思っています。

「一歩(いっぽ)」

私は、何事に取り組むにもまずは最初が大事だと考え「一歩」を目標にしました。ゼロとイチには大きな差があると思います。自分から行動することが大事で、一度挑戦してみて、たとえどんな結果でもそれを経験として次に進む大切な一歩として歩いていこうと思います。

「一念通天(いちねんつうてん)」

一念通天とは「どんなことでも一心に努力すれば、必ず成就する」という意味です。これまでできないことがあったらすぐに諦めることがあったけれど、この言葉を聞いて努力すれば必ず願いが叶うんだと思い、諦めず苦手な数学もわかるまで一生懸命勉強していきたいです。

「笑夢(えむ)」

この言葉に込めた思いは、辛いことや悲しいことがあっても笑って夢に向かうということです。私には夢があります。その道に行くには難しいかもしれないし、辛いことや自分自身が分からなくなったりする時もあるけど、頑張ったら将来「笑夢」になっているといいな。

「感謝(かんしゃ)」

この言葉にした理由は、14年間たくさんの方々を支えられ、ここまで成長することができたからです。今年は3年生になって様々な行事でリーダーを務めたり、受験があったりと大変な一年です。このような時期だからこそ、周りで支えてくれる人がどれだけ大切か感じて「ありがとう」を伝えることができるようになりたいです。

「質実剛健(しつじつごうけん)」

私の周りにはこつこつ頑張り、しっかり自分の芯となる強い思いをもっている人がたくさんいます。その人たちといると自分がどれだけ熱意がなく努力不足なのか思い知らされます。なので、この言葉を胸に、これからは努力を怠らない真っすぐな強い人間になれるよう精進していきたいと思っています。

和服の柄と髪型がキュート

～校内 Gallery 第6弾 木目込み人形展～

久しぶりに「校内 Gallery」をリニューアルして、2月19日(水)から「**木目込み人形展**」を実施しています。和服の柄の彩りもよく、キュートな髪型の人形たちがひな祭りの季節にぴったりの雰囲気を醸し出してくれています。

なぜ「木目込み」と言うかについては、外から人形を見ただけでは想像が付きません。実は人形の土台はおがくずを固めたような木製で、その土台に筋状に切り込みを入れ、その切り込みに布の端を押し込んで衣装を着ているように仕立てられた人形なのです。「木目に押し込む」動作から「木目込み人形」と呼ばれているのだと作品を提供してくださった西寒水地区の牟田和代さんから教えていただきました。ぜひご覧ください。



なかばるコミュニティの人②

おた かずよ
牟田 和代 さん



もともとクラフト手芸でかごやバッグを作るのが趣味だったが、数年前、参加していた「ゆめさが大学」で知り合った90代の方から「家を崩すのでもらいに来て」と言われ、道具やら具材などを車2台分ぐらい大量にもらったのが「木目込み人形」を始めたきっかけだった。また、タイミングよく作り方を教えてくださる先生(みやき町在住)に出会うことができ、2年間重点的に技能を学ばせてもらった。

しかし、一通り作業工程をマスターしても、しばらくは思うような作品には仕上がらなかった。人形の襟元にあてる布の柄合わせが一番難しく、完成度を左右する。それでも試行錯誤するうちに飾っても恥ずかしくないような作品ができるようになった。毎週金曜日、手芸サークルでいろんな特技をもつ仲間と集い、時間を忘れて作品作りに没頭するのが何よりの楽しみだ。

3世代交流で子どもたちに手芸を教えたこともある。中学生とは一緒に手毬(てまり)などを作っていたが、近年は少子化に加え、感染症対策や作業中にけがをしないようになどと何かしようとしても配慮することが多く、まとまりにくいと感じている。

「私は昔から好奇心が強く、人のいる所に出かけていくっちゃんね——勉強も大事だけど、**みんなと遊ばないと本当の人間関係がつかれない**と思うけどね…」はつらつとした声で語るその言葉は説得力に満ちていた。

